

〒060-0808
 札幌市北区北8条西6丁目2-23-806
 TEL 011-594-8454
 FAX 011-594-8455
 URL <https://tomari816.com>
 E-mail info@tomari816.com
 郵便振替口座 02790-1-100850



2020年度活動方針

泊原発の廃炉をめざす会 弁護団長 市川守弘

「泊原発の廃炉をめざす会」は、2020年度の活動方針として、次の4項目に取り組みます。

1 泊訴訟の状況と弁護団の方針

ア 訴訟では、被告北電の対応は昨年度同様です。

① 原発敷地前の海底断層については、北電はその存在を認めています。しかし、断層の長さ、断層の位置については、確定していません。したがって地震が発生した場合にどの程度の影響が原子炉に及ぶかについての調査も行われていない状態です。

② 津波については、北電は今までの主張を変えていますが、最大でどの程度の津波になるかという基準津波さえ確定していません。そのため、防潮堤の設計や工事内容についても確定しておらず、いつ完成するかも分かりません。

③ 敷地内断層について

は、依然調査が継続し、規制委の審査が続いています。

これらの3つの点について、調査終了後、再度規制委の審査がありますが、現状ではいつ審査に入るのかさえ分かりません。

このような状況は、北電が泊原発の安全性を立証できていないことを意味します。つまり、現状が極めて危険な状況にあるということです。

イ 原発訴訟は、まずは電力会社側が「二応の安全性」を立証して、次に原告側が「それでも危険だ」ということを立証する順番になります。「二応の安全性」は、これまで規制委の適合性審査を通ったという立証でよいと考えられています。しかし、今年（2020年）の広島高裁で、それでは不十分でちゃんと具体的に立証せよ、ということになりました。様々な学者が発言する内容を規制委が踏まえているか、などを電力会

社側が立証する必要があるということです。

泊訴訟では、規制委の適合性審査すら通っておらず、北電の安全性についての立証は全くできていません。

ウ 以上の状況の中で、弁護団としては現状の危険性を前提に、北電は「二応の安全性」すら立証できない以上、原告勝訴の判決を書くように裁判所に引き続き訴えていく、という方向で進みたいと思います。

2 避難計画のパンフレット作成

昨年度は泊原発の問題点を3つの観点からマンガで説明したリーフレットを発行しました。今年度は避難計画に的を絞って、その問題を少し詳細に具体的に指摘し、避難計画に実効性の無いことを訴えるパンフレットを作成する予定です。

3 広報活動

広く道民に泊原発の廃炉をめざす会を紹介し、廃炉の重要性を理解してもらうために、廃炉の会独自に

チ力ホでリーフ等を使った広報活動をします。また、シミサポの企画に参加し共同の市民活動の場で、脱原発社会に向けた世論形成に取り組みます。

4 「泊原発を再稼働させない北海道連絡会」の加盟団体として

廃炉の会が加盟する「泊原発を再稼働させない北海道連絡会」では、今年度（2020年）の活動として、
 (1) 鈴木知事あての新しい署名に取り組み
 (2) 樋口英明講演会を11月（予定）に開催する
 (3) 後志を巡回し、後志の住民と連携した運動を構築する計画をしています。廃炉の会は加盟団体の一員として、これらの活動に積極的に取り組みます。

◆ 今後の予定等 ◆

次回期日は、令和2年9月1日（火）午後2時00分からの予定です。新型コロナウイルス感染防止のため、傍聴席が減らされる可能性がありますので、ご了承ください。

「法廷外の意見陳述」

廃炉の会は2011年11月11日第一次原告612名で札幌地方裁判所に提訴しました。翌2012年第二次原告募集で622名が加わり1,234名の原告団になりました。「法廷外の意見陳述」は原告でない方にも「意見陳述」していただく場です。

放射能汚染が及ぼす道民への影響

〜関東から避難してきた者からの報告と提言〜

中村由紀男（泊原発廃炉の会「そらち」会長）



一家で北海道へ避難

私たちは家族総勢9人、関東地方から北海道へ、放射能避難でやってきました。こんなことを言うと、福島でも東北でもないのに、多くの人が「？？」だと思えます。

息子は、3・11直後に東京にも降り注いだ汚染雨を重度知的障害児の子ども（私の孫）に浴びたことを後悔し、避難所などではとても生活できないと、すぐ北海道へ。その障害児のケアのため何回も埼玉と北海道を往復した私は、北海道が好きになってしまったこともあり、北海道を終の住処に選びました。娘は夫の実家がある栃木に住んでいましたが、ホットスポットが近くにあって家庭菜園の土もセシウム濃度が高いことがわかり、2年がかりで機械エンジニアの夫君を説得してやってきました。

福島原発事故による放射性物質のプルームは静岡や長野に至るまで降り注ぎ、関東地方にもあちこちにホットスポットがあります。事故直後、私の妻は東京都下のとある小学校に勤務していたのですが、敷地内の一部を密かに当局が「除染」している光景を見ました。ここはホットスポットでも

ないのでよ。公表されている空間線量だけだと、線量の高い地域は今やさほど多くないように見えますが、東京でも、下町や山間部の土壌はかなり汚染されています。政府が土壌汚染度を調査しないから、市民がつくる全国の放射能測定所が協力して3,400地点の土を測定したデータで判明しました。東京の放射能汚染は、チエルノブイリなら「避難の権利」が保障されるべきレベルなのです。

ストロンチウム汚染の実態

福島原発事故は今も収束しておらず、廃炉の見通しさえ立っていません。原発と原爆は科学的に同じ原理で、むしろ原発の方が桁違いの放射能汚染を来します。原発1基で広島型原爆の1,000倍以上の放射能を毎年生み出しているのです。使用済み核燃料を安全に貯蔵・処分する方法はありません。

各地の放射能汚染は、前述したものはほとんどセシウムによる汚染ですが、それ以外にも放出された核種がかなりあります。セシウムと同量程度放出されたはずのストロンチウムはほとんど明らかになっていません。これも、現政府が測定しないからです。皮肉なことに他国の政府や専門家が測ったデータはあり、日本政府も福島事故以前には測っていたのです。ストロンチウムはなかなか測定が困難な核種ですが、抜けた乳歯を集めて測定すると、汚染の実態がよくわかるのです。そのデータによると、大気圏核実験が多く行われた時期の約2年後に乳歯中のストロンチウム濃度が明らかに上昇しています。福島事故後の実態を把握

するために、乳歯中のストロンチウム濃度を測定する会社をやはり市民と専門家が立ち上げ、測定を開始しています。

トリチウム汚染水の放出

今まさに福島原発で問題になっているトリチウム放出問題。トリチウムはエネルギーが低いのでその放射能は問題ないという「原子力ムラ」方面からの吹聴があります。が、とんでもないのです。水素原子の同位体ですから、容易に水の中に紛れ込み、水分の多い人間の体の隅々にも入って、近隣の細胞のDNAを破壊したり物質の化学構造式まで改変してしまいます。

実際、アメリカの原発稼働地域と乳癌罹患率の分布には見事なくらい相関関係が見られます。（注）泊原発周辺の町村では、癌による死亡率が北海道の1位〜3位を占めています（稼働時）。この点でも、泊原発の再稼働はすべきでないのです。

食品からの内部被曝

原発は、事故に限らず、上記のように通常運転時、燃料の再処理・貯蔵時に放出される放射性物質による内部被曝（体内被曝）も恐ろしいのです。放射性物質は、呼吸と飲食そして皮膚を通じて体内に入ります。外部被曝は放射性物質から離れることによって被曝回数や強さを軽減することができますが、内部被曝は放射性物質が体内に留まる限り一生被曝が続きます。

内部被曝により、細胞にある染色体が破壊されたり改変されます。食物連鎖によって、より大きな問題となります。ここまで飲食・吸入しても安全という閾値はありません。

「原子力ムラ」では、この内部被曝を無視、または過小評価してごまかしているのです。彼らは「食物の中にも天然の放射性物質がある」とも言いますが、カリウム40な

どは、長い進化の過程で人間の体が対応してきたのです。自然核種と人工核種を同列に扱ってはいけません。

北海道民に及ぼす放射能汚染は、泊原発が大きな問題を起こさない場合でも、この内部被曝が最大の問題となっています。

純粋な北海道産の農作物ならほとんど問題ありませんが、冬場などは本州からたくさん農産物が入ってきますし、海のものも太平洋側で獲れた産物などに注意が必要です。山のものやジビエと呼ばれる野生鳥獣類から高いレベルの放射能が検出されることが多いです。

100ベクレル以上のものを流通させてはいけないようになってはいますが、測定頻度があまりにも少ないし、そもそもその基準は事故前では問題だったレベルなのです。厚生省が発表しているデータだけでも、東北や関東などでは依然として放射能が検出されています。

福島原発事故後、流産・乳児死亡率、周産期死亡率が増加しているデータが医療の専門家たちによって明らかにされました。チエルノブイリ原発事故後の健康被害のデータからも明らかのように、内部被曝の影響が顕在化してくるのは、むしろこれからのことです。

泊原発を再稼働させてはいけません

そもそも、こんなに地震の多い日本に原発をつくるのが大間違いだったわけですが、泊原発にも活断層があることがもはや明らかであり、前述したような様々な問題もあるわけですから、再稼働は絶対にすべきではありません。倫理上も許されないと、経済的にも破綻しています。

私の場合はさらに、北海道に移住した意味がなくなるようなことをやめてもらいたいです。



～「核」を絵筆でめりつぶせ ペンでかきあらためよ～

この言葉は、戦没画学生の慰霊美術館である無言館館主の窪島誠一郎氏が建立した石碑の碑文による。石碑は岩内町の高台から泊原発を見据えている。

命と水と感性

陶芸家 安部 郁乃

捨てようと思っていた湯飲み茶碗を、食器棚に戻して数日、ピカピカになつていくことにふと気が付いた。捨てられる運命、と乾いていた湯飲みは水が入り大喜び。生き生きとしたように感じられた。そして全てのものには、心と命があるのではないかという気がした。

命を動かしているものは何か。想像すると、思いついたものの一つは水。

水はあらゆる生命活動に関わっている。目の前の水はいつから存在して、どこから来たのだろうか。何回、誰かの体内を巡り、動かし、体内の菌も動かし、排出された後は、何の命を動かすのだろうか。宇宙と地球と生き物の活動の中で、水は形を変え、まるで生きていくように存在し、あらゆる命を動かしている。その命の偶然と不思議さと面白さと美しさに気が付けるのは今のところ、人間だけではないだろうか。その人間は、命の形作る自然を残す事も簡単に消してしまう事もできる。判断の拠り所となるものは、感性なのではないかと思う。



『石』(2020年 陶器)

石はたいいてい、自然とつながる場所に落ちている。角が取れた石は、長い間、水の力を受けたらう。そういうものが、好きだ。手に取ると、鳴るように作っている。手に取った方の、思いを巡らせるものとなってほしい。



『木』(2015年 陶器)

木の生きていることをわかりやすく作品にしたい、朝から夜までの展示会だったので、ソーラーパネルと電球を入れ、日中に蓄電し、夕暮れから明かりがつかだすようなものを作った。

放射性物質の生態系に与える影響や、最前線で処理にあたる人間の命への理不尽さに対してどう考えればいいのか。誰もが、本当は原発をいけなくはないと思うはずだ。欲望によつてすぐ間違えてしまつ、病んでしまつ人間が、これから先も地球で生きていく為に行ける事は何だろうか。大切なことは何だろうか。正確な情報からアイデアを出し合いたい。観察し考えていける人間に生れたことの奇跡、日々の中で暮らしの中から、世界においてきぼりにされた感性を育てていきたい。心と魂を磨き、自然の大きさに気付ける心を大事にしたい。想像力を枯らせてはいけない。自分も含めて全ての命がいきいきしてほしい。



『石のような、シリーズ』(2020年 陶器)

2011年から精製されてない土のテストを重ね、石のような風合いの器の形を作ってきた。粘土が本来どんな性質を持っているのか、先人の粘土への思いも実感として知ることができた。

次回口頭弁論

2020年9月1日(火) 14:00～
札幌地裁 (札幌市中央区大通西11丁目)

集合 13:20 大通公園西11丁目

集会 13:50～ 傍聴抽選に外れた人対象

報告会 口頭弁論終了後～16:00

会場 北海道高等学校教職員センター
(札幌市中央区大通西12丁目)

原告そして賛同人の皆様へ

私達が2011年11月11日に札幌地裁に提訴をして8年余りの時が流れました。この間、「泊原発の廃炉をめざす会」の運営資金として皆様からは多大なご支援を頂きました。

本来ならばお一人おひとりに、お礼状を差し上げるべきところですが、ここに謹んで感謝申し上げます。皆様からのカンパ金は会の運営と活動のための尊い浄財として大事に使わせていただいております。

2020年はCovid-19パンデミックの下でさまざまな集会・デモ等が中止されてしまいましたが、こうした状況下にあっても、泊原発の廃炉をめざし、脱原発社会の実現に向けた世論を喚起できるよう根強い活動をつづけていく所存です。

コロナ感染症の行方はまだまだ見えません。皆様、どうぞご自愛くださいませ。

世話人・事務局一同